



しらやま

白山小学校だより No.13

令和2年7月27日

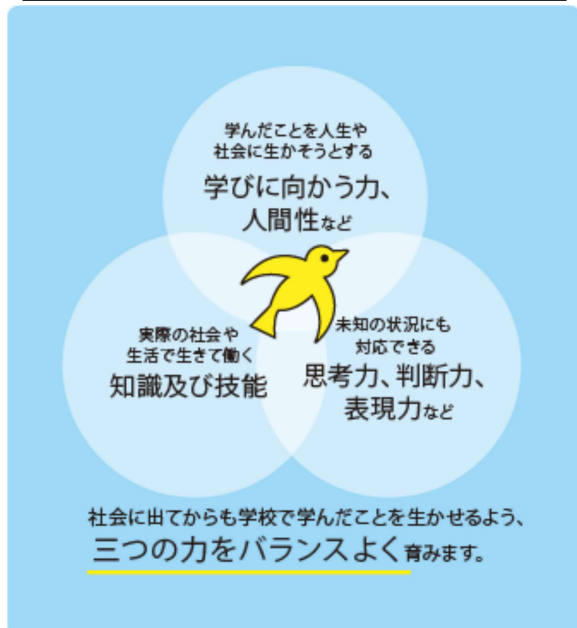
◇◇◇ 子どもたちの成長と幸せのために ◇◇◇

近年、グローバル化や人工知能（AI）などの技術革新が急速に進み、10年後、20年後、30年後はどんな世の中になっているのか予測が難しい時代になるといわれています。専門家の中には、「今後10～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」「今の小学生の約6割は、今存在していない仕事に就くだろう」とまで述べる人もいます。子どもたちには今を楽しく元気に生きるだけでなく、これからの社会がどんなに変化して予測困難になっても、子どもたち自らが人生を切り開き、自分が思い描く幸せを実現してほしいものです。

さて、今年の春から子どもたちが使っている教科書が新しく変わりました。それは、学習指導要領（全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準）が変わったからで、約10年に一度改訂されます。特に今回は、3年生から外国語活動が始まったり、プログラミングに関する内容が算数や理科の学習に入ってきたりしています。さらに「特別の教科 道徳」が新設されるなど、これまでと大きく変わったところがあります。10年後の2030年やその先も見通した社会の姿を考えているために、学ぶ内容も変わってきているのです。そこで私たちは、これまでのように「何を学ぶか」を大切にしながら、「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」も重視して授業を行っているところです。新型コロナウイルス感染症による様々な影響はありますが、「あれもこれもできない」のではなく、「今しかできないこと」「今だからできること」を考えて取り組んでいきたいと思っています。

また、学習指導要領が改訂されたことを受けて、通知表の様式も今年度から変更になります。各教科における評価は学習指導要領に示されている目標や内容に照らして行います。これまで主に4観点で評価していましたが、今年度からは全教科3観点となります。お子さんの1学期の学習や生活の様子については、8月5日（水）の保護者会で各担任からお伝えさせていただきます。

新しい学習指導要領で育む 資質・能力の3つの柱



<文部科学省HPより>

学習評価の3つの観点

知識・技能

教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。